

# 安心安全な**克**雪体制づくり

## 取組事例集



平成31年3月

 **国土交通省 国土政策局 地方振興課**




※この事例集は「平成30年度 雪処理の担い手の確保・育成のための克雪体制支援調査業務」に取り組まれた10地域の活動を紹介したものです。

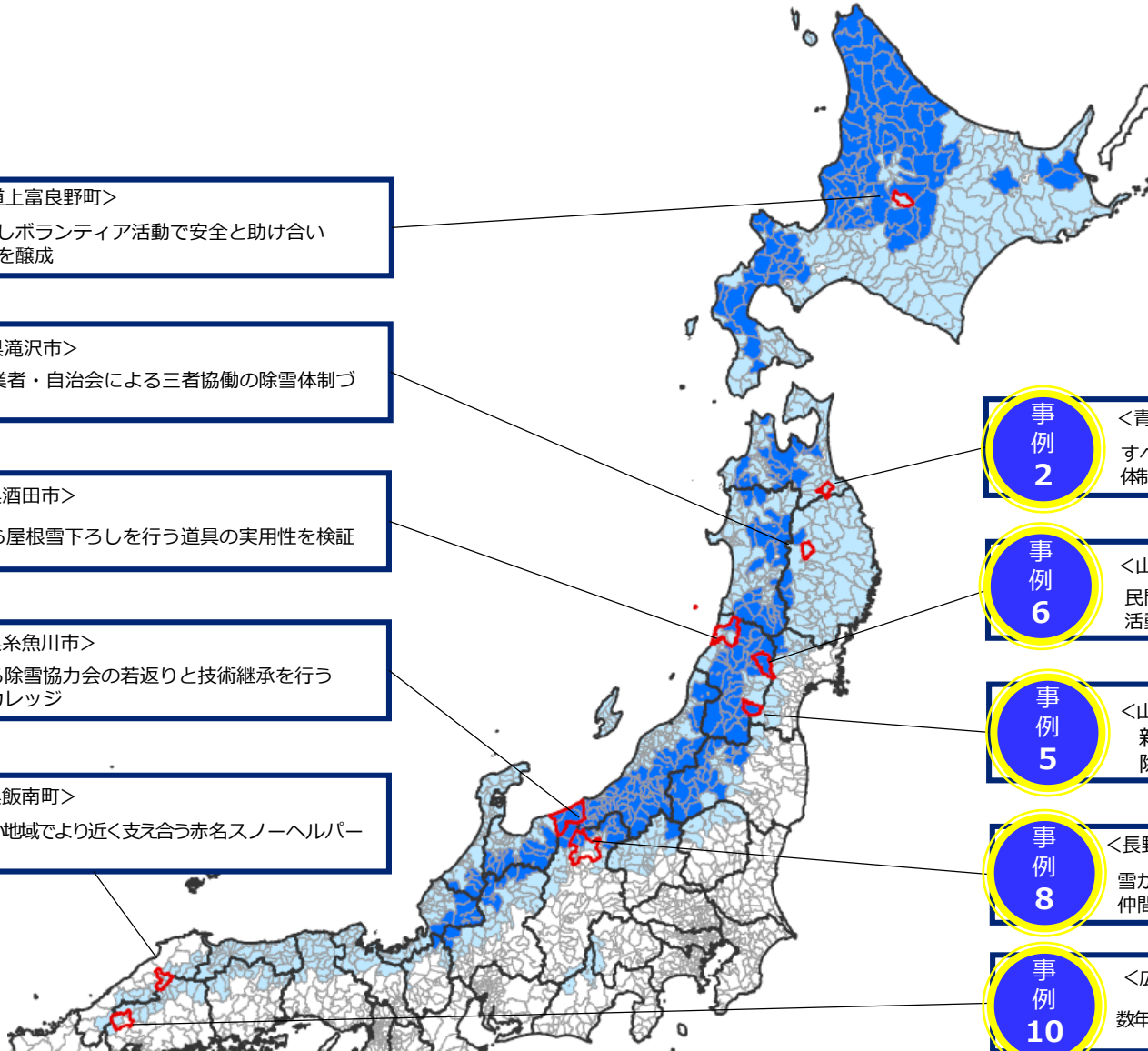
# 掲載事例一覧

NO	活動地域	事例名	ポイント
事例 1	北海道 上富良野町	雪下ろしボランティア活動で安全と助け合いの意識を醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>「世界一安全な上富良野」を掲げ、安全な除雪作業の啓発・普及に継続して取り組む</li> <li>雪下ろしボランティアの活動を核として、安全意識の醸成を図り、困っている人を助けようという気持ちを持った住民を増やす</li> </ul>
事例 2	青森県 南部町	すべての町内会で自主的に除雪活動を行う体制整備を目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>除雪ができなくて困る世帯の間口除雪を各地域で支え合うための体制づくりを推進</li> <li>会議及び反省会の助成、ピブス、除雪用スコップの支給により、自主的に除雪活動を行う町内会を拡大</li> </ul>
事例 3	岩手県 滝沢市	行政・業者・自治会による三者協働の除雪体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>滝沢市が目指す三者協働の除雪体制づくりを自治会の特性に応じた「自治会モデル」へと展開</li> <li>先行事例の水平展開を図りながら、意欲のある自治会へのステップアップ支援を実施</li> <li>シンポジウムで市民の共助除雪意識が醸成</li> </ul>
事例 4	山形県 酒田市	地上から屋根雪下ろしを行う道具の実用性を検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋根に上らずに地上から道具を使って雪下ろしを行うという視点から、雪下ろし作業の事故防止・安全確保を目指す</li> <li>持続可能な除雪線体制づくりを求めて、有償ボランティアチームの設立に着手</li> </ul>
事例 5	山形県 上山市	新しい支え合い・助け合いの除雪ボランティア体制を整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>「支え合い」「助け合い」の機能を再構築するため、除雪ボランティア活動を企画・実施</li> <li>半日の一斉作業というイベント型で除雪ボランティア活動を実施し、地元中高生が大活躍</li> </ul>
事例 6	山形県 尾花沢市	民間企業が社会貢献活動として除雪ボランティア活動を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間企業が社会貢献活動として、雪国市町村と連携した除雪ボランティア活動を実施</li> <li>「社会課題を意識し、自ら触れ、課題解決する人材づくり」として社員教育の効果を実感</li> </ul>
事例 7	新潟県 糸魚川市	歴史ある除雪協力会の若返りと技術継承を行う雪かきカレッジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>越後雪かき道場をアレンジし、地域主導の「君の手雪かきカレッジ」を企画・開催</li> <li>地域の若い世代が主体的に参画し、雪かき指導者を育成するプログラムとしても機能</li> </ul>
事例 8	長野県 長野市	雪かき道場を通して安全確保と思いを共有できる仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な除雪作業を行うため、対象世帯の屋根や住宅周りの状況を調べて除雪カルテを作成</li> <li>雪かき道場をきっかけに仲間を取り組む楽しさに気づき、暖簾分けで今後は独自開催へ</li> </ul>
事例 9	島根県 飯南町	より広い地域でより近く支え合う赤名スノーヘルパーが始動	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動日を設定して高齢者世帯等の玄関先等のボランティア除雪を行う活動を実施（2年目）</li> <li>活動の定着と参加者の増加を図り、除雪活動を通じた安心して暮らせる地域づくりを推進</li> </ul>
事例 10	広島県 安芸太田町	数年に一度の大雪に備えた雪かきボランティアの体制を構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>西日本ならではの特徴を踏まえ、雪かきボランティアセンターの仕組みづくりに着手</li> <li>少雪のためボラセン実証事業を雪かき体験会に変更し、実際の流れをシミュレーション</li> </ul>

# 掲載事例の活動地域

## 凡例

-  H30年度選定地域
-  豪雪地帯
-  特別豪雪地帯



事例 1

<北海道上富良野町>  
雪下ろしボランティア活動で安全と助け合いの意識を醸成

事例 3

<岩手県滝沢市>  
行政・業者・自治会による三者協働の除雪体制づくり

事例 4

<山形県酒田市>  
地上から屋根雪下ろしを行う道具の実用性を検証

事例 7

<新潟県糸魚川市>  
歴史ある除雪協会の若返りと技術継承を行う雪かきカレッジ

事例 9

<島根県飯南町>  
より広い地域でより近く支え合う赤名スノーヘルパーが始動

事例 2

<青森県南部町>  
すべての町内会で自主的に除雪種別を行う体制整備を目指す

事例 6

<山形県尾花沢市>  
民間企業が社会貢献活動として除雪ボランティア活動を実施

事例 5

<山形県上市市>  
新しい支え合い・助け合いの除雪ボランティア体制を整備

事例 8

<長野県長野市>  
雪かき道場を通して安全確保と思いを共有できる仲間づくり

事例 10

<広島県安芸太田町>  
数年に一度の大雪に備えた雪かきボランティアの体制を構築

事例  
1

# 雪下ろしボランティア活動で安全と助け合いの意識を醸成

## 北海道上富良野町

ポイント

- 「世界一安全な上富良野」を掲げ、安全な除雪作業の啓発・普及に継続して取り組む
- 雪下ろしボランティアの活動を核として、安全意識の醸成を図り、困っている人を助けようという気持ちを持った住民を増やす

実施主体

上富良野町社会福祉協議会  
〔活動地域：上富良野町〕

自治体

北海道上富良野町 人口：10,826人（増減率：-6.2%）  
世帯数：4,363世帯（増減率：-1.2%）  
※平成27年国勢調査、増減率 = (H27の値 - H22の値) ÷ H22の値

きっかけ

- 平成5年より自衛隊「曹友会」をはじめ町内の団体による屋根の雪下ろしボランティアを毎年開催行っており、参加団体及び参加者も500名以上が参加するまでに広がっている。
- 平成27年度に除雪機材や安全機材を整備の上、除雪安全研修会を開催。平成28年度は安全な作業を周知するためのDVDを作成。平成29年度は紙芝居で安全啓蒙を行い、安全3点セットを整備。
- さらに除雪作業の安全対策と安全意識を町民全体及び近隣市町村に広めていくことを目指す。

取組内容

- 町民全体及び近隣市町村に安全対策を普及・周知するため、「雪の困りごとを考えるシンポジウム」を開催し、アドバイザーから課題解決のヒントを発信した。
- 外部講師からバトンタッチし、地元のベテランが講師役となつて、スノーバスターズ（除雪ボランティア）研修会を開催した。
- 毎年恒例の雪下ろしボランティア活動を開催。計5日間で518名が活動し、学生ボランティアも100名以上が参加した。

主な成果

- 雪下ろしボランティアの活動終了後、関係団体による反省会を初めて開催し、継続・発展のための改善点が明確になった。
- スノーバスターズという活動があること、雪下ろしの安全対策が必要であることを伝え続け、町民の認識は相当高まった。



スノーバスターズ研修会



スノーバスターズ研修会



雪下ろしボランティア 出発式



雪下ろしボランティア活動

雪の困りごとを考える  
シンポジウム



# すべての町内会で自主的に 除雪活動を行う体制整備を目指す 青森県南部町

- 除雪ができなくて困る世帯の間口除雪を各地域で支え合うための体制づくりを推進
- 会議及び反省会の助成、ビブス、除雪用スコップの支給により、自主的に除雪活動を行う町内会を拡大

**実施主体** 南部町社会福祉協議会  
〔活動地域：南部町〕

**自治体** 青森県南部町 人口：18,312人（増減率：-7.7%）  
世帯数：6,419世帯（増減率：-3.0%）  
※平成27年国勢調査、増減率 = (H27の値 - H22の値) ÷ H22の値

- きっかけ**
- 南部町内には現在65の町内会があり、町内会長、民生委員児童委員、地域住民が加わって、平成29年度時点で22町内において自主的に除雪活動を行う体制（除雪体制）が整備済み。
  - 平成29年度、全地区町内を対象とした研修会を開催するとともに、目立つ色のジャンパー、帽子、のぼり旗を支給することで、すべての自治会で除雪体制ができていることを目指した。
  - 地域づくりの人材発掘、育成を視野に入れて、緒についた除雪体制づくりの動きをさらに定着・拡大させていくこととした。

- 取組内容**
- 除雪活動者の名簿を提出した町内会に対して、除雪活動時に限らず、町内での地域活動時にも着用してもらうビブスを支給した。
  - 南部町内の全65町内会の会長にアンケート調査を実施し、独自に除雪を実施している組織の有無、除雪活動名簿の意向、自力で除雪できない世帯数などを把握した。
  - このアンケート結果をもとに、町内会が希望する除雪スコップを支給した。

- 主な成果**
- 除雪活動登録町内が22町内から27町内へ、除雪活動人数が330名から352名に増加し、除雪会議も計12回実施された。
  - 除雪活動者は「幅広い地域課題を解決していく上でのキーパーソン」でもあるという認識が深まった。



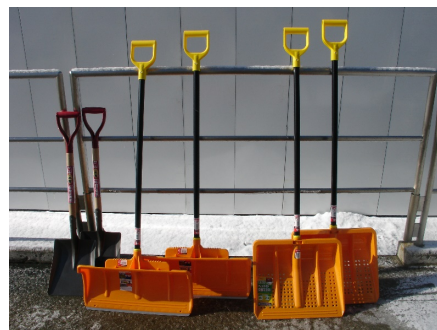
除雪活動対策会議



各町内での除雪活動



支給したビブス



支給した除雪スコップ

# 行政・業者・自治会による 三者協働の除雪体制づくり

## 岩手県滝沢市

ポイント

- 滝沢市が目指す三者協働の除雪体制づくりを自治会の特性に応じた「自治会モデル」へと展開
- 先行事例の水平展開を図りながら、意欲のある自治会へのステップアップ支援を実施
- シンポジウムで市民の共助除雪意識が醸成

実施主体

滝沢市  
〔活動地域：滝沢市〕

自治体

岩手県滝沢市 人口：55,487（増減率：3.0%）  
世帯数：20,778世帯（増減率：7.1%）  
※平成27年国勢調査、増減率 = (H27の値 - H22の値) ÷ H22の値

きっかけ

- 行政・業者任せの除雪から住民主体の除雪へと転換することを目指し、平成26年度から4か年当調査事業を活用して、圧雪・凍結のない生活道路の確保と地域独自の排雪事業に取り組んできた。
- その結果、上の山自治会において、行政・業者・自治会の三者による協働の除雪体制（上の山モデル）が整った。
- 滝沢市内のあすみ野自治会を対象に、地域の実情を踏まえた新たな三者協働の除雪体制づくりに取り組むこととした。

取組内容

- あすみ野自治会へのステップアップ支援として、除雪に関する講演会、住民アンケート調査、除雪懇談会を実施した。
- あすみ野自治会において、12月中旬より土日を中心に除雪隊員による地域除排雪活動を実施した。
- 他の自治会や市民への普及活動として「滝沢市の除雪を考えるシンポジウム」を開催。上の山自治会の活動紹介、大仙市の事例紹介、講師による総括を通じて、協働除雪の意義を発信した。

主な成果

- 先行事例を参考として、あすみ野自治会の実情を踏まえた三者協働の除雪体制を作り上げた。除雪隊の認知度が上がり、隊員は3人から7人に増加。中学生ボランティアも除排雪活動に参加した。
- シンポジウムで市が置かれている除雪の現状を詳しく説明することで、市民の共助除雪に取り組もうという意識が醸成された。



地域除排雪活動



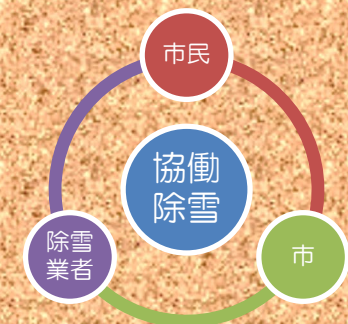
地域除排雪活動



除雪に関する講演会

あすみ野自治会の活動

滝沢市の除雪を考える  
シンポジウム



事例  
4

# 地上から屋根雪下ろしを行う 道具の実用性を検証

山形県酒田市

ポイント

- 屋根に上らずに地上から道具を使って雪下ろしを行うという視点から、雪下ろし作業の事故防止・安全確保を目指す
- 持続可能な除雪線体制づくりを求めて、有償ボランティアチームの設立に着手

実施主体

日向地区社会福祉協議会  
〔活動地域：酒田市〕

自治体

山形県酒田市 人口：5,903人（増減率：-9.4%）  
（旧八幡町） 世帯数：1,824世帯（増減率：-4.2%）  
※平成27年国勢調査、増減率 = (H27の値-H22の値) ÷ H22の値

きっかけ

- 酒田市日向地区は、平成24年度より、地域住民と地域外のボランティアがともに除雪作業を行う「日向ささえあい除雪ボランティア」を開始している（年2回）。
- 活動を継続するためには、除雪作業の安全管理を行う人材及びコーディネーターを育成する必要があり、平成28年度には越後雪かき道場の協力を得て、雪かき道場 in 酒田市日向を開催した。
- 日向ささえあい除雪では、雪下ろしは行わないため、危険のない雪下ろし方法と有償ボランティアに取り組むこととした。

取組内容

- 共助除雪シンポジウム「雪かきで地域が育つか」を開催。専門家による共助除雪に関する講演やアドバイス、先進事例の紹介などを行い、地域住民を中心に50名以上が参加した。
- 屋根には上がらずに地上から雪下ろしができる様々な道具（10種類）を取り揃え、長さ、形状、しなり具合、使い勝手、実用性を検証した。
- 有償ボランティアチームの設立に向けて意見交換を重ねた。

主な成果

- 地上から雪下ろしができる道具を比較検証し、改良の余地はあるものの、実用できる道具を見出すことができた。
- 有償ボランティアチームの設立について、参加者の理解を得ることができ、次年度以降の活動にめどがついた。



共助除雪シンポジウム



雪下ろしの様々な道具の検証

共助除雪シンポジウム  
「雪かきで地域が育つか？」

冬の周回の解消や地域づくりには、雪かき有効ってホント？ 雪害体験の専門家を交えて、その可能性を探る!

平成30年 10月20日(土) 14:00~16:15

日向コミュニティーセンター  
999-8206 酒田市上里川家ノ原19-2 TEL 0234-64-4913

第1部 主催：へらへらでゆう会 14:00~15:00  
「共助除雪で地域づくり」の進め方  
上村晴司氏（長岡技術科学大学大学院工学研究科 教授）  
「雪かき道場in酒田市日向」の開催に向けて  
木村五和氏（NPO中越防災フロンティア 理事）

第2部 主催：日向地区社会福祉協議会 15:10~16:15  
「有償ボランティアチームの設立に向けて」  
二藤久三氏（有償体制支援アドバイザー）  
「三瀬スノースーパーの取組紹介」  
石塚 慶氏（有償体制支援アドバイザー）  
「共助除雪のアドバイス」  
沼野賢生氏（東北工業大学 名誉教授） ほか、質疑応答（～16:15）

上村晴司氏 沼野賢生氏 木村五和氏 二藤久三氏 石塚慶氏

※第3部 16:30~17:45 講師を交えた懇親会(希望者のみ)

SNOW INNOVATION 雪害の挑戦

日向コミュニティーセンター内  
999-8206酒田市上里川家ノ原19番地2  
TEL 0234-64-4913 / FAX 0234-43-0065  
HAKONE@CCO.CCIBO.DAIRY.CO.jp

この事業は、国土交通省「雪害の軽減・予防のための実用型支援事業」を通じて、雪下ろし道具の改良・開発の支援を受けて実施しています。



雪下ろし道具の検証チーム

# 新しい支え合い・助け合いの 除雪ボランティア体制を整備

## 山形県上山市

- 「支え合い」「助け合い」の機能を再構築するため、除雪ボランティア活動を企画・実施
- 半日の一斉作業というイベント型で除雪ボランティア活動を実施し、地元中高生が大活躍

実施主体

上山市社会福祉協議会  
〔活動地域：上山市〕

自治体

山形県上山市 人口：31,569人（増減率：-6.7%）  
世帯数：10,694世帯（増減率：-0.5%）  
※平成27年国勢調査、増減率 = (H27の値 - H22の値) ÷ H22の値

きっかけ

- 上山市では、地区会や近隣者、福祉協力員等が中心となって、手助けが必要な世帯に対して除雪作業を行ってきた。
- 少子高齢化により地域で支え合いや助け合いの機能が脆弱になり、既存の支援体制では除雪に対応できなくなってきた。
- そこで、各地区の除雪体制の実態を調査し、地区会や行政、各関係機関、ボランティア等と協議した上で、新たな除雪ボランティア活動を企画・実施することとした。

取組内容

- 地区会長（99人）、民生児童委員（82人）に対し、アンケート調査を実施し、誰かの手助けがないと除雪できない世帯の状況を把握した。
- 関係機関・団体、市内中学校、高等学校等への説明、社協広報紙、ホームページ等で除雪ボランティアを募集・確保した。
- 期日（日曜日の午前）を決めて、上山市内15地区の64世帯を対象に、185名の参加を得て除雪ボランティア活動を実施した。

主な成果

- 幅広くボランティアを募集し、上山市で初めて除雪ボランティア体制を整備するとともに、実際に活動することができた。
- 市内中・高校生が100名近く除雪ボランティアに参加し、福祉教育や世代間交流といった効果も得ることができた。



除雪ボランティア活動



高校生が制作したイラストポスター



除雪用具も整備



# 民間企業が社会貢献活動として 除雪ボランティア活動を実施

## 山形県尾花沢市

ポイント

- 民間企業が社会貢献活動として、雪国市町村と連携した除雪ボランティア活動を実施
- 「社会課題を意識し、自ら触れ、課題解決する人財づくり」として社員教育の効果を実感

**実施主体** 日立キャピタル株式会社

**自治体** 山形県尾花沢市 人口：16,953人（増減率：-10.6%）  
世帯数：5,109世帯（増減率：-4.2%）  
※平成27年国勢調査、増減率 = (H27の値-H22の値) ÷ H22の値

- きっかけ**
- 日立キャピタルグループは、平成29年10月に社会貢献活動方針を制定し、役社員参加型の社会貢献活動プログラムを開始した。
  - 複数あるプログラムの一つとして、豪雪地帯雪かきボランティアを企画。活動フィールドを探す中で、尾花沢市除雪ボランティアセンターの協力を得ることとなった。
  - 活動に参加する役社員の多くは雪に不慣れで、除雪作業の経験も乏しいことから、事前に安全講習を行い、事故のない有意義なボランティア活動の実現を目指すこととした。

- 取組内容**
- 受け入れ先の尾花沢市と良好な関係を作るため、除雪ボランティア参加新入社員6名が、1泊2日のスイカ収穫援農を実施した。
  - 平成30年11月、日立キャピタル本社において、除雪ボランティア参加者約70名を対象に、「雪かきボランティア安全研修会」を開催した。
  - 平成31年2月、1泊2日の日程で除雪ボランティア活動を実施。社員約70人（うち新入社員約30名）が参加し、8班に分かれて4地区20軒を除雪作業を行い、事故・怪我なく活動を完了した。

- 主な成果**
- 活動を通して社員に“気づき”がもたらされ、「社会課題を意識し、自ら触れ、課題解決する人財づくり」に大きく寄与した。
  - 大規模な活動を安全に運営するためのノウハウを得ることができ、今後の活動の発展に役立った。



現地事前交流（スイカ援農）



除雪ボランティア安全研修会



除雪ボランティア活動

日立キャピタルグループ 2018年度社会貢献プログラム  
豪雪地帯・高齢者宅の除雪支援

### 雪かきボランティア安全研修会

除雪ボランティア参加者必見！

2018年11月29日（木）  
15:00～17:00

次第	内容	講師
15:00	開会 主催者挨拶 執行役挨拶	(ハマ) (オオ)
15:10	雪かき安全研修会 「はじめての雪かきボランティア」	二藤部久三氏 「雪かきで地域が育つ」
16:40	班編成の発表、安全講の発表	上村靖司氏
16:50	謝礼・所感	(カ)

**会場** 日立キャピタル本社10F ABC会議室  
港区西新橋1-3-1 西新橋スクエア  
※定員200名、申し込みは先着順です。

**講師ご紹介**

二藤部久三氏 (ニフツベキウジ) 氏  
（株）成和建設 代表取締役  
国土交通省 平成30年度  
国土交通省 平成31年度  
国土交通省 平成32年度  
国土交通省 平成33年度  
国土交通省 平成34年度  
国土交通省 平成35年度  
国土交通省 平成36年度  
国土交通省 平成37年度  
国土交通省 平成38年度  
国土交通省 平成39年度  
国土交通省 平成40年度  
国土交通省 平成41年度  
国土交通省 平成42年度  
国土交通省 平成43年度  
国土交通省 平成44年度  
国土交通省 平成45年度  
国土交通省 平成46年度  
国土交通省 平成47年度  
国土交通省 平成48年度  
国土交通省 平成49年度  
国土交通省 平成50年度  
国土交通省 平成51年度  
国土交通省 平成52年度  
国土交通省 平成53年度  
国土交通省 平成54年度  
国土交通省 平成55年度  
国土交通省 平成56年度  
国土交通省 平成57年度  
国土交通省 平成58年度  
国土交通省 平成59年度  
国土交通省 平成60年度  
国土交通省 平成61年度  
国土交通省 平成62年度  
国土交通省 平成63年度  
国土交通省 平成64年度  
国土交通省 平成65年度  
国土交通省 平成66年度  
国土交通省 平成67年度  
国土交通省 平成68年度  
国土交通省 平成69年度  
国土交通省 平成70年度

上村靖司氏 (ウカムニヨシ) 氏  
国土交通省 平成30年度  
国土交通省 平成31年度  
国土交通省 平成32年度  
国土交通省 平成33年度  
国土交通省 平成34年度  
国土交通省 平成35年度  
国土交通省 平成36年度  
国土交通省 平成37年度  
国土交通省 平成38年度  
国土交通省 平成39年度  
国土交通省 平成40年度  
国土交通省 平成41年度  
国土交通省 平成42年度  
国土交通省 平成43年度  
国土交通省 平成44年度  
国土交通省 平成45年度  
国土交通省 平成46年度  
国土交通省 平成47年度  
国土交通省 平成48年度  
国土交通省 平成49年度  
国土交通省 平成50年度  
国土交通省 平成51年度  
国土交通省 平成52年度  
国土交通省 平成53年度  
国土交通省 平成54年度  
国土交通省 平成55年度  
国土交通省 平成56年度  
国土交通省 平成57年度  
国土交通省 平成58年度  
国土交通省 平成59年度  
国土交通省 平成60年度  
国土交通省 平成61年度  
国土交通省 平成62年度  
国土交通省 平成63年度  
国土交通省 平成64年度  
国土交通省 平成65年度  
国土交通省 平成66年度  
国土交通省 平成67年度  
国土交通省 平成68年度  
国土交通省 平成69年度  
国土交通省 平成70年度

**問い合わせ**

日立キャピタル-CSR推進部  
電話 内線：714-29688  
E-mail: csr@hitachi-capital.co.jp  
〒100-0001 東京都千代田区千代田 1-3-1 西新橋スクエア  
井口 内線：714-44282  
iguchi\_yuriko@hitachi-capital.co.jp

二藤部久三氏 (ニフツベキウジ) 氏  
（株）成和建設 代表取締役  
国土交通省 平成30年度  
国土交通省 平成31年度  
国土交通省 平成32年度  
国土交通省 平成33年度  
国土交通省 平成34年度  
国土交通省 平成35年度  
国土交通省 平成36年度  
国土交通省 平成37年度  
国土交通省 平成38年度  
国土交通省 平成39年度  
国土交通省 平成40年度  
国土交通省 平成41年度  
国土交通省 平成42年度  
国土交通省 平成43年度  
国土交通省 平成44年度  
国土交通省 平成45年度  
国土交通省 平成46年度  
国土交通省 平成47年度  
国土交通省 平成48年度  
国土交通省 平成49年度  
国土交通省 平成50年度  
国土交通省 平成51年度  
国土交通省 平成52年度  
国土交通省 平成53年度  
国土交通省 平成54年度  
国土交通省 平成55年度  
国土交通省 平成56年度  
国土交通省 平成57年度  
国土交通省 平成58年度  
国土交通省 平成59年度  
国土交通省 平成60年度  
国土交通省 平成61年度  
国土交通省 平成62年度  
国土交通省 平成63年度  
国土交通省 平成64年度  
国土交通省 平成65年度  
国土交通省 平成66年度  
国土交通省 平成67年度  
国土交通省 平成68年度  
国土交通省 平成69年度  
国土交通省 平成70年度

# 歴史ある除雪協力会の若返りと技術継承を行う雪かきカレッジ 新潟県糸魚川市

ポイント

- 越後雪かき道場をアレンジし、地域主導の「君の手雪かきカレッジ」を企画・開催
- 地域の若い世代が主体的に参画し、雪かき指導者を育成するプログラムとしても機能

実施主体

君の手雪かきカレッジ  
〔活動地域：糸魚川市〕

自治体

新潟県糸魚川市 人口：44,162人（増減率：-7.4%）  
世帯数：16,699世帯（増減率：-4.2%）  
※平成27年国勢調査、増減率 = (H27の値-H22の値) ÷ H22の値

きっかけ

- 糸魚川市西海地区は、山間部の7集落からなり、高齢化率は約80%、2メートル以上の積雪がある。日常生活の不安・困りごとの第1位が雪堀りなどの冬の生活に関すること。
- 地区には20年続く「西海地区除雪協力会」がある。メンバーは約60名であるが、高齢化は進み、組織の若返りや地区内外から協力者を求めることが必要となってきた。
- 平成29年度に「越後雪かき道場」の協力を得て雪かき道場を開催するなど、雪かきを通じた都市農村交流に取り組み出した。

取組内容

- 「越後雪かき道場」をアレンジし、除雪協力会の主要メンバーの若返り、若手協力者の拡大、協力会のベテランメンバーの除雪技術の伝承を目的として「君の手雪かきカレッジ」開催した。
- 除雪マニュアル（除雪注意事項10か条）を作成し、西海地区内全戸約800世帯に配布した。
- 除雪技術の伝承の場として、地元の西海小学校高学年を対象にかんじきの履き方講習を実施した。

主な成果

- 年配世代を中心に地域が運営されてきたが、本事業では地域の若い世代が自分事として積極的に関わることができた。
- 西海地区除雪協力会の若返りができ、雪の手カレッジの当日も司会、座学、初級・中級現場運営を30歳代の若者が担当した。



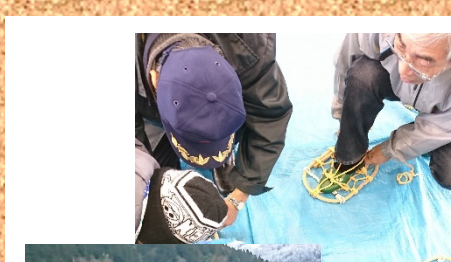
君の手雪かきカレッジ



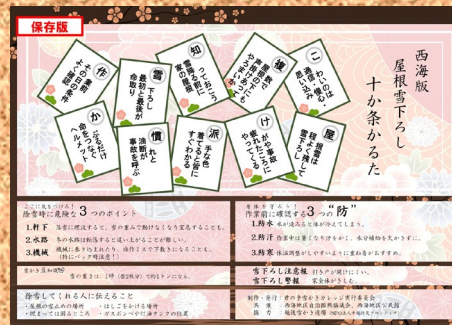
君の手雪かきカレッジ



君の手雪かきカレッジ



西海小学校かんじき講習



除雪マニュアル（注意事項10か条）

# 雪かき道場を通して安全確保と 思いを共有できる仲間づくり

長野県長野市

ポイント

- 安全な除雪作業を行うため、対象世帯の屋根や住宅周りの状況を調べて除雪カルテを作成
- 雪かき道場をきっかけに仲間を取り組む楽しさに気づき、暖簾分けで今後は独自開催へ

実施主体

鬼無里地区住民自治組織  
〔活動地域：長野市〕

自治体

長野県長野市 人口：1,393人（増減率：-18.1%）  
（旧鬼無里村） 世帯数：645世帯（増減率：-10.2%）  
※平成27年国勢調査、増減率 = (H27の値 - H22の値) ÷ H22の値

きっかけ

- 鬼無里地区は、長野市で最も高齢化と人口減少が進んでおり、自力での雪かきも近所での助け合いも限界にきている。
- そこで地区外からボランティアを受け入れる態勢をつくるため、越後雪かき道場の協力を得て、平成27年度に「雪かき道場in鬼無里」を開催し、参加者からも地元住民からも好評を得た。
- 地域主体のイベントとして継続・定着させていくため、平成28年度に再度「雪かき道場in鬼無里」を開催。さらに雪かき道場の暖簾分けを目指して平成30年度に4回目の雪かき道場を企画。

取組内容

- 安全な除雪作業を行うため、対象世帯の屋根や住宅周りの状況、必要となる除雪道具、アンカー等を調べて除雪カルテを作成。
- 雪害救助員、仕事として除雪をしている方、ベテランの経験者を対象に、プロ向けの除雪安全専門講習会を開催した。
- 一般住民、地域に住む子ども世代を対象に、住民向け講習会（除雪安全対策塾）を開催。また、高齢者向けミニ講座を行い、現在の活動紹介、安全対策の周知、安全帯の実演等を行った。

主な成果

- 合計4回の雪かき道場の開催を経て、本家・越後雪かき道場より暖簾分けをしてもらう。今後は独自の開催が可能となった。
- 様々な活動を続けてきたことで、次世代を中心に思いを共有する新しい仲間が増え、地域づくり全般に波及しつつある。



住民向け除雪安全対策塾



プロ向け除雪安全専門講習会



高齢者向けミニ講座



越後雪かき道場より暖簾分け



雪かき道場 in 鬼無里  
記念写真

# より広い地域でより近く支え合う 赤名スノーヘルパーが始動

島根県飯南町

ポイント

- 活動日を設定して高齢者世帯等の玄関先等のボランティア除雪を行う活動を実施（2年目）
- 活動の定着と参加者の増加を図り、除雪活動を通して安心して暮らせる地域づくりを推進

実施主体

赤名スノーヘルパー（赤名自治振興協議会）  
〔活動地域：飯南町〕

自治体

島根県飯南町 人口：5,031人（増減率：-9.1%）  
世帯数：1,842世帯（増減率：-5.2%）  
※平成27年国勢調査、増減率 = (H27の値-H22の値) ÷ H22の値

きっかけ

- 平成16年12月、少子高齢化による戸数の減少、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯が増える中、集落機能を充実させるため、4地域を一つにした赤名自治振興協議会を結成した。
- 平成29年度、「隣近所以上の、より近い家族的な支え」「隣近所より、より広い地域での支え合い」が必要と考え、より広い地域でより近く支え合う「赤名スノーヘルパー」が誕生した。
- 赤名スノーヘルパーの2年目として、除雪ボランティアの定着を図り、住民の参加・見守り意識の向上を目指すこととした。

取組内容

- 平成31年1月、2月の合計5日間、10時～11時半とあらかじめ実施日時を定め、赤名スノーヘルパーによる高齢者世帯等の除雪活動を計画・実施した（少雪のため1日のみの活動となった）。
- ボランティア意識の醸成と近隣地域への除雪組織の普及を目的に、飯南町全域の福祉委員等を対象に「ささえあい除雪研修会」を飯南町社会福祉協議会と連携して開催した。
- 次年度は赤名レディーススノーヘルパーの結成に取り組む予定。

主な成果

- 赤名スノーヘルパーの活動に35名（20～60歳代男性の35%）が賛同し、うち20名が高齢者世帯等を自主的に活動した。
- 除雪活動を通して地域の男性住民が高齢者世帯等を訪問することで、安心して暮らせる地域づくりを大きく前進させている。



赤名スノーヘルパーのメンバー



除雪ボランティア活動



除雪ボランティア活動



除雪ボランティア活動

赤名雪かきボランティア

スノーヘルパー



高齢者世帯等の玄関先等を除雪します。  
雪かきにご協力お願いします！

実施日 下記の日曜日 10時から11時30分  
1月20日 1月27日 2月3日 2月10日 2月17日

集合場所 準備いただくもの  
●赤名バス車庫前 10時 ● スコップ等 ●

雪が少ない時や悪天候により中止する場合は、告知放送にてお知らせします。  
活動は自治会保険の対象となります。18歳以上の方の参加をお願いします。

赤名自治振興協議会 総務部・事業部・福祉部

# 数年に一度の大雪に備えた 雪かきボラセンの体制を構築 広島県安芸太田町

- 西日本ならではの特徴を踏まえ、雪かきボランティアセンターの仕組みづくりに着手
- 少雪のためボラセン実証事業を雪かき体験会に変更し、実際の流れをシミュレーション

実施主体

安芸太田町社会福祉協議会  
〔活動地域：安芸太田町〕

自治体

広島県安芸太田町 人口：6,472人（増減率：-10.8%）  
世帯数：2,770世帯（増減率：-7.8%）  
※平成27年国勢調査、増減率 = (H27の値 - H22の値) ÷ H22の値

きっかけ

- 安芸太田町は広島県内で最も少子高齢化が進む町であり、積雪は多い年で2メートルを超える。最近では1回で多くの雪が降る（ドカ雪）ことが多く、自助や共助では対応が難しくなっている。
- 西日本は雪がない年があることも踏まえ、普段より町内の他地区や近隣市の広島市や廿日市市などから支援者（ボランティア）を受け入れる仕組みづくりが必要と考える。
- 平成30年3月の雪かき実証事業を経て、平成30年度に雪かきボランティアセンターを立ち上げることにした。

取組内容

- 雪かきボランティアセンターの立ち上げに向けて、町被災者生活サポートボラネット、除雪に係る調整会議等で、町行政関係部局、関係機関と協議を重ね、連携体制を構築した。
- 活動地域となる自治会において地域説明会を開催し、合意形成ができた5つの自治会で実施することとなった。
- 資機材を購入。少雪ながらも平成31年1月に雪かき体験会を開催し、雪かきボランティアセンターの1日の流れを確認した。

主な成果

- 自治会 - 町役場 - 社協で雪かきボランティアセンターの体制・仕組みを構築することができた。
- 雪かき道具の充実により、一度に20～30名程度のボランティアの受入れが可能になった。



除雪に係る調整会議



地域説明会



雪かき体験会（受入れシミュレーション）

# 各地区の基礎情報

NO	事例名	実施主体	実施地域	地方							人口規模(*1)					活動分類														活動開始年	連絡先 (電話番号)														
				北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	1万人未満	1~3万人	3~10万人	10~30万人	30万人以上	活動範囲		活動場所						屋根雪下ろしの実施		組織づくり		ボランティア属性				料金 有償	安全対策の検討	シンポジウム等	人材派遣	交流イベント	冬期居住	技能伝承・人材育成	I T活用	助成制度					
																市町村	自治会等	要支援者宅	事業所	公共施設	バス停	道路・歩道	通学路	その他	活動団体	ポラセン	学生	企業	行政・団体												地区内	広域	ボランティア属性	ボランティア属性	
事例①	雪下ろしボランティア活動で安全と助け合いの意識を醸成	社会福祉法人 上富良野町社会福祉協議会	北海道 上富良野町	○																																			H5	社会福祉法人 上富良野町社会福祉協議会 0167-45-3505					
事例②	すべての町内会で自主的に除雪活動を行う体制整備を目指す	社会福祉法人 南部町社会福祉協議会	青森県 南部町	○																																				H29	社会福祉法人 南部町社会福祉協議会 0178-76-2662				
事例③	行政・業者・自治会による三者協働の除雪体制づくり	滝沢市	岩手県 滝沢市	○																																				H30	滝沢市都市整備部道路課 019-656-6549				
事例④	地上から屋根雪下ろしを行う道具の実用性を検証	日向地区社会福祉協議会	山形県 酒田市 (旧八幡町)	○																																				H30	日向地区社会福祉協議会 0234-64-4913				
事例⑤	新しい支え合い・助け合いの除雪ボランティア体制を整備	社会福祉法人 上市市社会福祉協議会	山形県 上市市	○																																					H30	社会福祉法人 上市市社会福祉協議会 023-695-5095			
事例⑥	民間企業が社会貢献活動として除雪ボランティア活動を実施	日立キャピタル株式会社	山形県 尾花沢市	○																																					H30	日立キャピタル株式会社 経営戦略室CSR推進部 03-3503-7314			
事例⑦	歴史ある除雪協会の若返りと技術継承を行う雪かきカレッジ	君の手雪かきカレッジ	新潟県 糸魚川市			○																																				H10	糸魚川市 総務部企画定住地域振興係 025-552-1511		
事例⑧	雪かき道場を通して安全確保と思いを共有できる仲間づくり	鬼無里地区住民自治協議会	長野県 長野市 (旧鬼無里村)																																								H27	鬼無里地区住民自治協議会 026-256-2213	
事例⑨	より広い地域でより近く支え合う赤名スノーヘルパーが始動	赤名スノーヘルパー (赤名自治振興協議会)	島根県 飯南町																																								H29	赤名スノーヘルパー事務局 090-7548-6080	
事例⑩	数年に一度の大雪に備えた雪かきボランティアの体制を構築	社会福祉法人 安芸太田町社会福祉協議会	広島県 安芸太田町																																									H30	社会福祉法人 安芸太田町社会福祉協議会 0826-32-2226

\*1 市町村合併前の旧市町村単位の人口規模を表す。